

千刈狸の呟き

最近、大学の同期会があった。

司会

「では、近況報告をお願いします。まずは子育てに苦労しているA君でーす。」

周り

「ちょっとひどい紹介じゃない？」

A

「俺、本当に苦労してるんだ！実は・・・。」

周り

「へーーーー。」

司会

「では、大学で偉くなったB君でーす。」

周り

「なんで、あの子と別れたんだよー。」

B

「それはそのあの時・・・。」

周り

「ほーーーー。」

司会

「次は、開業しているC！」(この辺で、司会は酔っている。)

C

「どうも、みなさん、実は20年くらい前に酒を飲むのが、ふと、いやになって以来一滴も飲んでません。」

周り

「さすがCだなー。」

～同期生～

山 狸

以下、体調崩して臨床を離れた奴、家族と病院が順調な奴、子供の年齢を考えて開業した人、度胸がないから開業しないという奴、まもなく80代の親の跡を継ぐ覚悟をしてる奴ら、なんとなく大学勤務を続ける奴、娘が海外留学してる奴、教授を辞めて新たな道に行く奴など、学生時代と同様にあけっぴろげな話が続く。ずいぶん時間が経ったものである。

ずっと、同じキャンパスで学生時代をおくり、定期試験前日に寮の自習室での徹夜とか、臨床実習では運が悪いと朝6時から夜9時までいっしょとか、14日間の長い合宿とか、共に過ごし続けてきた連中にもう30回くらいしか会えないかもしれないと思うと寂しい感じと不思議な感覚を持った。でも、その時代が終わったからこそ、新しい仲間や家族と日々を過ごしている。また、今の生活も徐々に変わって行き、いつもの顔ぶれと別れがきて、新しい出会いがある。人は、今を大切にできないのだろう。

